

第 1 期

(令和 3 年 8 月～令和 5 年 7 月)

堺市北区政策会議のまとめ

令和 5 年 9 月

目次

1 会議の背景	1
(1) 北区みんなのまちビジョンに掲げる北区の将来像「いろんな『たのしい』でつながる街・北区」	
(2) 北区みんなのまちビジョンの基本方針	
▶ 基本方針 1：みんなでつくる安全・安心の町	
▶ 基本方針 2：みんなで関わる子育ての街	
▶ 基本方針 3：みんなで魅力をつくる・発信する街	
2 会議のテーマ	2
3 テーマごとの会議の内容	3
(1) 北区の魅力発掘・発信・創出について	
(2) 北区みんなのまちビジョンに関する子育て支援施策について	
○ 生きる力の基礎養成について	
・子どもの生きる力を育む北区提案事業	
○ 地域とのつながりを途切れさせない仕組みについて	
・孤立を防ぐ地域とのつながりに関する北区提案事業	
(3) 現役世代の防災意識を高める啓発施策について	
○ 主な意見と取組方針	
・今後の提案取組 暮らしの中で防災を意識する機会の創出	
・今後の提案取組 防災特設ページでの興味関心を持たせる発信	
4 会議の総括	13
5 今後の取組の方向性について	13
参考資料	14
(1) 堺市北区政策会議構成員名簿	
(2) 堺市北区政策会議特別構成員名簿	

1 会議の背景

(1) 北区みんなのまちビジョンに掲げる北区の将来像「いろんな『たのしい』でつながる街・北区」

「たのしい」をきっかけに新たな区民活動が生まれ、「たのしい」で区民活動がゆるやかにつながり持続性・発展性のあるものとなり、主体的に地域に関わっていただく区民の皆さんの輪が大きく広がることにより区民協働での地域共創を進めます。

(2) 北区みんなのまちビジョンの基本方針

基本方針 1：みんなでつくる安全・安心の街

近い将来発生が危惧される南海トラフ巨大地震や近年の異常気象による台風や集中豪雨などに対応できるよう、街全体で防災力を高めることが求められます。防災リテラシーを高め、自助、共助、公助の観点を踏まえて災害に強い地域の実現に取り組みます。

また堺市市民意識調査(令和元年)では、治安に対する問題として、「防犯カメラの設置が少ない」をあげる割合が高いなど、犯罪のない都市環境が望まれています。地域防犯力を高め、犯罪のない都市環境の実現に取り組みます。

基本方針 2：みんなで関わる子育ての街

出生数や子育て世代にあたる生産年齢人口が7区で最も多く(令和元年度堺市統計書)、妊娠出産から乳幼児期、学齢期、青少年期に至る切れ目のない支援がより一層求められます。

地域との関わりの中で子どもが様々な体験を通して心身ともに健やかに育つ環境や、子育て中の保護者の不安を解消し、安心して子育てができ、子育てに喜びを感じることができる環境を創出できるよう取り組みます。そして、子育て世帯を地域全体で支える仕組みを作ります。

基本方針 3：みんなで魅力をつくる・発信する街

都市の持続的発展のためには、多くの人々が住み続けることが不可欠。「住みたくなる街、ずっと永く住み続けたい街」をめざすため、北区の魅力を発掘・創出し、広く発信し、地域愛を醸成することが必要です。

「住みやすさ」「緑の多さ」「交通の便のよさ」など評価が高い住環境の魅力や「月見祭」などの伝統行事、「いたすけ古墳」などの歴史文化資源など北区の魅力を区民自らが再確認し、地域アイデンティティを醸成できる場や機会の提供に取り組みます。

また、様々な分野で活動する地域活動団体の活動を活性化し、区民みんなが活動に参加できるような支援を行います。

2 会議のテーマ

将来像「いろんな『たのしい』でつながる街・北区」の実現に向け、「北区みんなのまちビジョン」の基本方針に係る施策について事業立案する際に必要なポイントや提案事業に対して意見を聴取しました。

(1) 北区の魅力発掘・発信・創出（基本方針 3）

○第1回 令和3年9月2日（木）【書面開催】

- ・座長の選出
- ・発信すべき北区の魅力
- ・SNSを活用した魅力発信
- ・広報紙における魅力発信
- ・地域アイデンティティの醸成

○第2回 令和3年3月16日（水）【書面開催】

- ・魅力の定義・事業展開のポイント
- ・取組改善
- ・令和3・4年度取組
- ・区民自らの取組等を支援

(2) 北区みんなのまちビジョンに関する子育て支援施策（基本方針 2）

○第1回 令和4年8月15日（金）【書面開催】

- ・幼少期から学齢期にかけて子どもが身につけるべきこと
- ・「子どもの生きる力の育成」に関して家庭や地域でできること
- ・子育て世帯が求めている子育て世帯同士や地域とのつながり
- ・コロナ禍でも子育て世帯同士や地域でのつながりを持ち続けるためのアイデア

○第2回 令和4年11月11日（金）

- ・子どもの生きる力を育む支援に関する北区役所提案事業
- ・孤立を防ぐ子育て世帯間や地域とのつながりに関する北区役所提案事業

(3) 現役世代の防災意識を高める啓発施策（基本方針 1）

○第1回 令和5年3月10日（金）

- ・効果的な防災啓発施策検討のポイント
- ・防災啓発施策の新たな展開手法

○第2回 令和5年7月24日（月）

- ・くらしの中で防災を意識する機会の創出
- ・防災特設ページでの興味関心を持たせる発信

3 テーマごとの会議の内容

(1) 北区の魅力発掘・発信・創出について

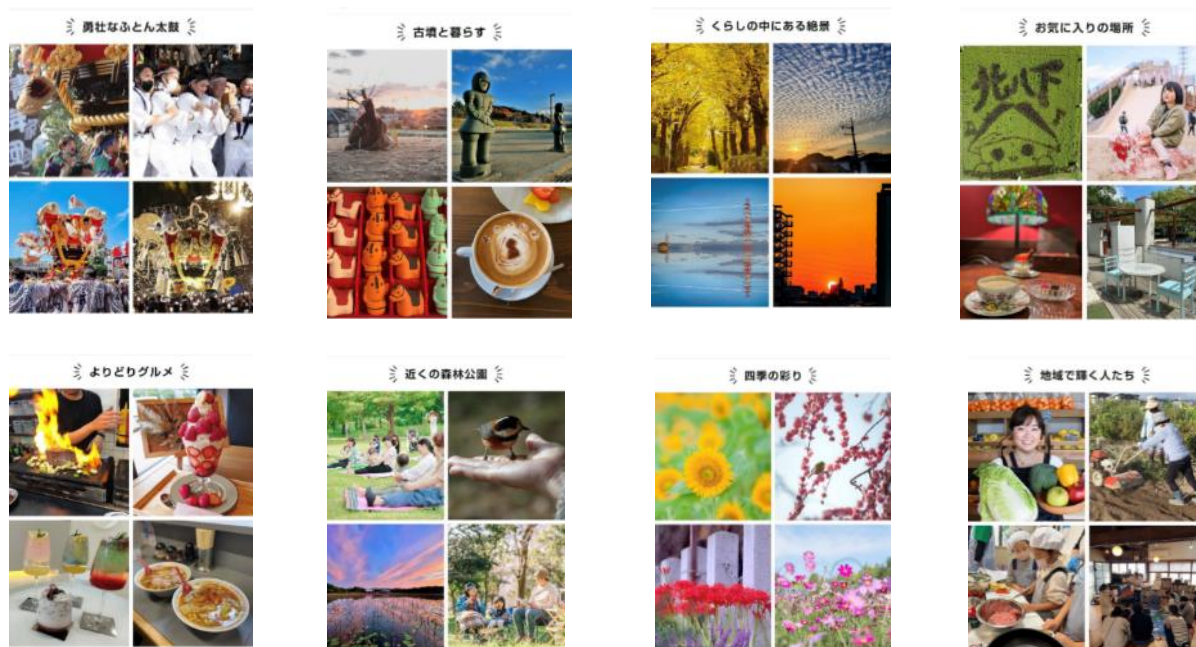
発信すべき北区の魅力、SNS を活用した魅力発信、広報紙における魅力発信、地域アイデンティティの醸成、北区の実践など「北区の魅力発掘・発信・創出」に関して意見を聴取しました。

主な意見

- ・web 上だけでは発信できる対象に限られるため、様々な発信手法が必要。
- ・オンライン上のみならず、リアルイベントと SNS が連動できる仕組みが重要。
- ・Instagram で区民から収集した写真をつながりづくりに活用すると良い。
- ・北区広報紙における魅力の発信について地域活動等の紹介も必要。
- ・できるだけ区民の活動や店舗などおもしろいものを取り上げてほしい。
- ・高齢者も気軽に参加できるような取組が、地域をつなげていく一助になる。
- ・区民が地域でふと感じた良いところを区役所が集約し共有できると、新たな取組も生まれる。
- ・コンテストを開催する場合は、実施内容について結果を含め広報紙に掲載すべき。
- ・鉄道など企業と連携することは重要。地元企業、個人商店も含め地元の魅力発信を広げられると良い。
- ・Instagram は気軽に使う若年層への普及をすることが必要。楽しんで自由に投稿できる場になると良い。
- ・区役所のアカウントをフォローしてもらうことが大切。投稿しなくても多くの人と共有できることに意味がある。
- ・住みやすいまちの魅力として、活性化している商店街もある。
- ・地域 SNS アプリ「ピアZZ」は若い方が楽しめるような内容になると良い。

施策への反映

● Instagram では範囲を広げ頻度を上げて各人からのオススメ投稿を紹介



➡北区役所アカウントは投稿数・フォロワーが拡大し、多くの魅力が集まり、発信力の高い媒体に成長

● SNS で収集した魅力を広く共有できるよう広報紙やデジタルサイネージ、ポスター、冊子などに展開



北区広報紙で
(R4年8月・R5年4・5・6・8月号)



大阪メトロなかもず駅で(R5年3月)



北区役所市政情報コーナーで(R5年3月～)



大阪メトロ新金岡駅で(R5年6月)



そよ新金岡で(R5年3月～)

○北区の魅力を発信・発掘する冊子を発行



・SNS の投稿写真で北区の魅力スポットを紹介



・お気に入りスポットを書き込めるマップを掲載

- ・併せて、北区ホームページに北区の魅力を深掘り・検索してもらう特設ページを開設。マップにはその QR コードを掲載。



●投稿写真で魅力動画を作成し SNS で拡散



➡みんなのオススメ編(画像)の他、歴史編、自然編、風景編を発信し SNS の総視聴回数は約 5.3 万回

●身近に感じ読みたいくなるような広報紙へとリニューアル



○親しみやすいロゴデザインに刷新 (令和 4 年 7 月号から)



○地域で活躍する方を取材し
北区の魅力として紹介
(令和 4 年 7 月号から連載)

●Instagram活用講座を開催し
投稿の活性を促進



●地域 SNS ピアッツァでは公園マップを示し
口コミを集められるような仕組みを作成



(2) 北区みんなのまちビジョンに関する子育て支援施策について

「ようきた（北）ね子育て三ツ星プラン」では、子ども、保護者、地域を三つの星にたとえ、それぞれが輝けるよう支援に取り組んでいます。これまで十分でなかった「子ども自身への支援」、中でも幼少期に重要な「生きる力の基礎養成」について新たな取組を検討しました。また同プランでは「つながる場づくり」「伝わる情報発信」に取り組んでおり、感染症などにより対面交流の場が制限される状況でも地域とのつながりを途切れさせない仕組みを検討しました。

また、検討する施策において必要なポイントや、それらを踏まえて今後取り組む事業について意見を聴取しました。

主な意見①

生きる力の基礎養成について

■ 幼少期から学齢期にかけて子どもが身につけるべきことについて

- 家庭や集団生活の中で相手が喜ぶこと嫌がることを肌で感じながら学び、覚えていくこと。
- マナー、社会でのルール。
- 遊びを通して、コミュニケーションの取り方や約束を守ること、思いやりを育むこと。
- 子どもの喧嘩を子ども同士で解決させ、互いの言い分を聞き、問題点を考え、解決策を見出していく力。
- 主体性、協調性、道徳性や自分で考え判断する力。
- 自尊感情を持った自己表現力、コミュニケーション能力。
- 自分のことを自分でできることが自信につながり、様々なことへ興味・好奇心を広げられる。
- 自ら興味や関心を持ち、五感を使って経験すること。経験から、もっと知りたいという学習の意欲につながる。

■ 「子どもの生きる力の育成」に関して家庭や地域でできることについて

- 家庭での親の態度が子どもを育てるので、真似をされても大丈夫な親の言動。
- 家庭でコミュニケーションしやすい雰囲気を作ること。
- 家の外で何があっても、見守ってくれる家族がいる、安心できる場所があること。
- あらゆることの基盤や安心、情緒の安定につながる、愛されて大切にされているという感情。
- コミュニティ全体で子育てする意識の醸成が必要。家庭以外の子どもの居場所作りなどを地域全体で考え、共助を強化していく必要がある。
- 社会性を養えるよう地域での子どもが安心して遊べる場所や多世代の人と触れ合う機会。
- 年齢の違う様々な人との地域の出会いにより多様な見方や考え方を取り入れる力。

➡これらの「生きる力の基礎養成」の意見を受け、「子どもの生きる力を育む事業」を提案(次ページ)

子どもの生きる力を育む北区提案事業

■ 1 生きる力を育むプログラム事業

自らの意思と責任で主体的に思考・判断・決定・解決できるよう、学齢期に達したばかりの子どもを対象に様々な体験活動を通じて「生きる力」を育みます。

提案事業への主な意見

- ・体験は好奇心旺盛な子どもが楽しく色々な方とつながれて良いが、協力者の負担が気になり。
- ・3回は少ない。関係ができて終わってしまうのがもったいない。指導者の背中を見ながら学べる期間が必要。
- ・年齢の近いお兄（姉）さんにもボランティアとして参加してもらえたら色々な人と交流できて良い。
- ・北区に子ども食堂が14カ所もあるのに実施が3カ所は少なすぎる。小学校とも連携して広がって良い。

提案事業への反映

●「わくわく教室」として令和5年夏休みに試験的に子ども食堂3カ所で実施

➡実施後、課題を検証するとともに、場所や回数についてより効果的に実施できるよう検討

■ 2 子ども向けアンガーマネジメント事業

成長するにつれて周りの人との様々な関わり合いが増える中、対人トラブルが起こった時の適切な対処が求められます。怒り等の感情を抑える方法や自分の気持ちの表現方法などを学ぶ機会を提供することで、円滑な人間関係を築く基礎を育成します。

提案事業への主な意見

- ・感情をコントロールするのはもっと大きくなってから。幼少期は感情表現して相手の反応から学ぶことが大切。
- ・「友達とうまくつながる」など参加しやすいやわらかいタイトルにすべき。
- ・大人になってトラブル時に周りに解決を委ねないように、子どもの時から自分で解決する力を養うことが大切。
- ・子どもに言い聞かすのではなく、親子で一緒に学び、周りの大人が行動で示すことが大事。

提案事業への反映

●事業内容を改めて再検討

主な意見②

地域とのつながりを途切れさせない仕組みについて

■子育て世帯が求めている子育て世帯同士や地域とのつながりについて

- 困ったときに気軽に頼れる人が地域に一人でも多く見つけられるとよい。
- 親子でゆっくと入れる場所があればよい。必ず参加となると負担に感じるが、行く場所がない時があると助かる。
- 身近に相談できる相手がいなかったり地域の子育て支援を知らなかったりする。
- 子育て経験がない方、育児負担を抱えている方にとって気軽に話せる相手や温かく見守る居場所が必要。
- 子育ての情報交換ができ、子育ての心配や迷いを話せる子育て世帯同士のつながりが必要。

■コロナ禍でも子育て世帯同士や地域でのつながりを持ち続けるためのアイデアについて

- ネットを活用したり分散して少人数で集まったりなど工夫が必要。
- SNS や ZOOM など、非対面でも交流可能な時代。個別の趣味や悩み別にコミュニティがあれば入りやすい。
- 行政や地域のサイトに悩みや意見、出来事などを自由に書き込める「子育てコーナー」を設けられるとよい。
- 直接出会う機会を持たない人に SNS を選択肢として提供できれば、新たなつながりが生まれるきっかけになる。

→これらの「地域とのつながりを途切れさせない仕組み」の意見を受け、「孤立を防ぐ地域とのつながりに関する事業」を提案

孤立を防ぐ地域とのつながりに関する北区提案事業

■地域 SNS におけるつながり醸成事業

地域 SNS ピアッザの MAP 上に、子育てサークル、子ども食堂などの情報をスマホで気軽に一覧できる機能を追加し、地域の子育て支援の場を身近に感じてもらいます。また、子育て支援の場の運営者には同 SNS を PR の場として活用してもらうことを促し支援側と支援を受ける側のマッチングを図ります。

また、SNS 上に気軽に相談できるリンクを作成し、相談機関とつながっているという安心感を醸成します。

提案事業への主な意見

- ・未就学期の子育て世帯の中でもデジタルに弱い方もいると思うので、紙媒体でも周知するべき。
- ・若い世代にとって情報収集・発信しやすい SNS は良いが、あくまでアナログな媒体とハイブリッドであるべき。
- ・相談事例を挙げることで、「些細なことも相談できる」という相談しにくい人には安心感につながる。
- ・子育て応援アプリとピアッザについて、それぞれの利用メリットをホームページで分かりやすく伝えたい。

提案事業への反映

- SNS ピアッザで子育て支援の場を一覧できるマップを令和 5 年 9 月に作成予定



- マップに合わせて子育て支援の場の運営者に情報発信媒体として活用してもらえるよう働きかけ



(3) 現役世代の防災意識を高める啓発施策について

若年層ほど防災への取組が進んでいない傾向を踏まえ、北区に多く居住する現役世代をターゲットとして、意識が低い層に関心を持ってもらい、行動できていない層の取組のきっかけとなるような啓発について意見を聴取しました(令和5年7月24日会議にて最終聴取)。今後、区政策会議の意見を踏まえ、取組を進めます。

【主な意見と取組方針】

主な意見①

- 一般的な防災知識に加えて、北区の特性に合わせた啓発やPRが必要。
- 自助について具体的に分かるように、最低限お願いしたい備えを北区として伝えることが必要。

➡北区の特性を捉えた北区民に向けた啓発が必要

取組方針① 北区ホームページに防災特設サイトを開設

主な意見②

- 被災時の集合場所、備蓄品、生活圏内の注意点など家庭で話し合い家族の防災計画をつくるのが良い。
- 非常食の味や作り方、防災グッズの実際の使い方、どの程度役に立つかなどを事前に知っておくことが大切。
- ファミリー防災計画を公募し、優れたものを広報紙やホームページで発表すると良い。

➡家庭での備えが大切

取組方針② 各家庭がくらしの中で日頃から災害に備えられるような情報を提供

主な意見③

- 一番に考えないといけないのは組織に属していない子育て中の主婦層や未就学児。
- 学校の防災教育により子どもは身近に感じるし、友達や親・家族とも話せる。
- 子ども向けに分かりやすく、具体的に書かれている「子育てファミリーのための防災ブック」を活用すると良い。



➡子どもや子育て世帯への啓発が大切

取組方針③ 学校との連携、「子育てファミリーのための防災ブック」活用

主な意見④

- 大震災から時間が経過し、大震災を知らない世代も増える中、震災を風化させない啓発が大切。
- 危機感があれば、時間がなくても防災について考える。いつかは災害が起こるといふ啓発が必要。

➡震災を風化させないこと、危機感を持たせることが大切

取組方針④ 自分事を感じてもらえるよう発信

主な意見⑤

- ご近所や友達とのつながりで話題になると身近なものになる。身近になれば更に共有の機会が増える。
- 子育て世帯が集まる場に出向いたり、小学生の夏休みの自由研究で発表してもらったり、SNS でインフルエンサーに拡散してもらったりと、多くの人の目に触れることが大切。

➔SNS・口コミによる拡散が効果的 **取組方針⑤** SNS の活用、人に話したくなる面白い取組を紹介

主な意見⑥

- 支援に回れる現役世代が支援の必要な方をどう助けるかを考えることが必要。
- 中学生や高校生や大学生には、災害時に活躍できる知識やノウハウを身につけませんかという PR が大切。

➔支援者の養成が重要 **取組方針⑥** 同年代の共感を呼べるよう若年層で防災に取り組む方の思いを取材し発信

主な意見⑦

- 継続的な刷り込みが大切。
- 忙しい方でも、生活の中で防災に関して見かけられるようにあの手この手で露出を高めることが大事。

➔くらしの中で防災を意識する機会が大切 **取組方針⑦** 日常生活でのあらゆる場面をとらえた啓発

【今後の提案取組 1】「くらしの中で防災を意識する機会の創出」 ～取組方針②③⑤⑦を踏まえて～

シーン 1 ご家庭

わが家の防災アイデア、非常食レシピなど各家庭の取組について SNS など募集し、その中からおすすめのものを各種媒体で紹介して拡散

シーン 2 お買い物

- ①食料品や防災グッズを扱う店舗などにローリングストックなど災害への備え啓発ポップを掲示
- ②「くらしの備え。いつものもしも」を掲げる無印良品との連携
 - ・売り場での啓発ポップの掲示
 - ・防災キャンペーン時などに「区別防災マップ」「子育てファミリーのための防災ブック」の配架
 - ・店舗内で親子を対象にした防災イベント

シーン 3 街中

大阪メトロの地下通路、デジタルサイネージ（北区役所、そよら新金岡、イオンモール堺北花田など）、北区役所エントランスホール、新金岡市民センターなどを発信の場として活用

シーン4 SNS上

- ①北区役所公式インスタグラムで防災ウィークを設け、お役立ち情報を楽しく発信
- ②おやこ to ぼうさい講座の内容を発信

シーン5 学校

- ①ジュニア防災リーダー育成事業の推進
- ②学校で活用できそうな防災コンテンツの紹介

シーン6 図書館

- ①防災に関するブックフェアの開催
- ②ボランティアによるお話し会、図書館司書のおすすめ絵本リーフレットに防災関連本を採用
- ③書棚各コーナーに防災関連本の見出し設置
- ④子育て支援コーナーなどに「子育てファミリーのための防災ブック」を配架
- ⑤防災おすすめ本の紹介（ホームページなどでも 読書感想文や自由研究にもおすすめ）

【今後の提案取組2】「防災特設ページでの興味関心を持たせる発信」～取組方針①～⑥を踏まえて～

防災に関する取組や情報が十分に発信できていないという現状を踏まえ、北区で開催する講座やイベント、北区にお住まいの方に予め知っておいてほしい情報などを集約した防災特設ページを開設します。

1 北区の特性を踏まえた発信

(子育て世帯、共同住宅居住者、若者が多い)

(1) 子育て世帯に向けて

- ①おやこ to ぼうさい講座や子育てファミリーのための防災ブックを取材
 - ・興味を持ってもらうショートバージョンと学んでもらえるフルバージョンの動画を作成
- ②堺市総合防災センターの子育て世帯の利用を促進
 - ・北区政策会議提案「わくわく教室」で体験の小学生取材
 - ・新金岡駅前や中もず駅前などからバス1本と好アクセスをPR



防災特設ページイメージ

- (2) 共同住宅居住者に向けて
 - ・マンション防災講座の紹介
 - ・共同住宅で受けやすい被害と対策を紹介
- (3) 中学生・高校生・大学生など若者に向けて
被災時に支援者として活躍できる知識やノウハウを身につけませんかという PR
 - ・ジュニア防災リーダー育成事業など学校での取組の紹介
 - ・大阪公立大学ボランティア市民活動センター災害チームの活動の紹介

2 多くの方に防災意識を持ってもらう発信

■ 魅力的なコンテンツで興味を引く

- ①NHK のコンテンツ（リンク）を紹介
 - ・「つくってまもろう」～みんなで集めた防災アイデア～ ・「ポケモンぼうさいクラブ」
 - ・「生きるスキル」 ・「あなたならどうする？」 など無料で利用できる様々な動画やクイズなど
- ②興味を持ちやすい防災関連本を紹介
- ③無料で利用できる講座を紹介
 - ・生涯学習まちづくり出前講座
 - ・「企業による学びの応援プログラム」
- ④SDGs プラットフォーム会員の企業・学校・団体などとの防災に関する取組を紹介
- ⑤その他にも訴求力のある魅力的なコンテンツを探しホームページで発信

4 会議の総括

新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、一部書面開催となりましたが、20歳代から70歳代の幅広い年齢層、また地域での公益的活動に従事されている方、公募構成員、学生、子育て中の保護者、有識者など多様な立場の構成員やテーマごとに専門的知見を有する特別構成員からそれぞれの視点で様々な意見を聴取することができました。

北区みんなのまちづくりビジョンの3つの基本方針に基づくそれぞれの施策をテーマとし、最初のテーマ「魅力発掘・発信・創出」に関しては、意見を踏まえた施策の実施により効果が見え始め、2つめのテーマ「北区みんなの街ビジョンに関する子育て支援」に関しては施策が形となり動き始め、3つめのテーマ「現役世代の防災意識を高める防災啓発」に関しては施策の実施に向け調整を進めています。

会議の開催時期により進捗が段階的ではありますが、頂戴した多様な意見により「いろんな『たのしい』でつながる街・北区」の実現に向けた北区みんなのまちづくりビジョンの具現化が進んでいます。

5 今後の取組の方向性について

令和5年10月から令和7年3月までの第2期においては、第1期で聴取した様々な意見を踏まえた施策の具現化に引き続き努めるとともに、実施後の振り返りを行い、更なる効果的な取組へと発展させます。

また、「北区みんなのまちづくりビジョン」の計画期間（令和3年度から令和7年度）終了を視野に入れた次期ビジョン策定に向けて、これまでの状況を検証するアンケート調査の令和6年度中実施を予定しており、このアンケート調査についても北区政策会議の意見を踏まえながら取り組みます。

【参考資料】

(1) 堺市北区政策会議構成員名簿

◎座長 ○座長代理

氏名	団体・役職等
○ 天野 隆次	堺市北区自治連合協議会 会長
魚谷 守信	NPO 法人堺なんや衆 監事
◎ 加我 宏之	大阪公立大学 農学部 緑地環境科学科 教授
金戸 郁子	公募構成員
清水 苗穂子	阪南大学 国際観光学部 国際観光学科 教授
竹内 裕賀	大阪公立大学 ボランティア・市民活動センター 学生スタッフ
長尾 永子	家事代行・ベビーシッターサービス スマートスマイル代表 子ども食堂つなぐば代表
羽根 恵子	北花田庭園都市・グランアヴェニュー 防災会 副会長
坊農 豊彦	一般財団法人 関西情報センター 社会ビジネス創出グループ 課長・主任研究員
八木 則之	公募構成員
吉村 登志子	社会福祉法人 金岡会 幼保連携型認定こども園 わんぱく保育園 園長

(50音順)

(2) 堺市北区政策会議特別構成員名簿

○意見聴取期間 令和3年8月1日～令和4年5月31日

参加会議テーマ「北区の魅力発掘・発信・創出」

氏名	団体・役職等
佐藤 泰博	【メディア・広報媒体に関する知識を有する者】 産経編集センター 取締役 大阪代表
藤木 耕造	【地元の自治や農地を活かした魅力創出の経験を有する者】 北八下校区自治連合会会長
堀川 健	【交通事業者として沿線の魅力創出の知識を有する者】 大阪メロ 執行役員

○意見聴取期間 令和4年6月1日～令和4年12月31日

参加会議テーマ「北区みんなのまちビジョンに関する子育て支援施策」

氏名	団体・役職等
北口 裕子	【子育て家庭に対する支援の経験を有する者】 堺市子育てアドバイザー、子育てファミリーのための防災ブック製作メンバー、 防災士
辻 富士子	【保育・幼児教育に関する知識を有する者】 堺女子短期大学 非常勤講師 大阪健康福祉短期大学 非常勤講師

○意見聴取期間 令和5年2月1日～令和5年7月31日

参加会議テーマ「現役世代の防災意識を高める啓発施策」

氏名	団体・役職等
光武 早弥香	【子育て家庭向け防災事業実施の経験を有する者】 子育てファミリーのための防災ブック製作メンバー、 防災士、堺市子育てアドバイザー

(50音順)